

環境保全および社会貢献

環境保全への取り組み

2003年9月、ヤマトグループは、10年後の地球環境への貢献と企業としての成長の両立を目指し、「ヤマト運輸地球温暖化防止目標」と、目標達成の手段としての「車両台数の抑制」および「ハイブリッド車を中心とした低公害車両への切り替え」計画を策定しました。当社は、2012年度の計画達成に向けて、年度目標を着実にクリアしながら、取り組みを進めています。また、2005年2月に発効した京都議定書に基づき、当社は企業としての成長を維持しながら、2012年度のCO₂排出総量を2002年度比で99%に抑制することを目標として掲げ、そのために、原単位排出量(宅急便1個あたり)のCO₂排出量30%削減に向けた取り組みを続けています。以下に、具体的な活動として、台車を主力とする「サテライトセンター」の増設、低公害車導入の推進、ハイブリッド車導入の加速の状況についてご紹介します。

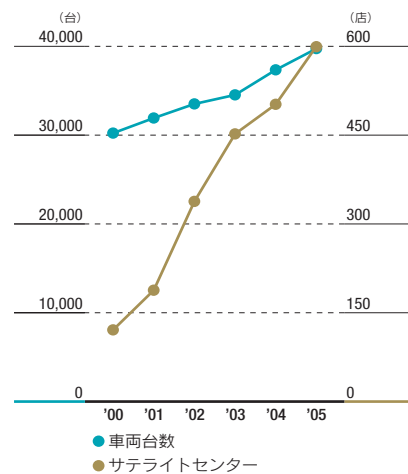


■「サテライトセンター」の増設

当社は、営業拠点を全国で約5,000ヶ所に細分化するネットワーク整備を進行させる中、自動車を使用せず台車(一部軽自動車使用)による集配業務を行う「サテライトセンター」の増設に取り組んでいます。これによって、市街地や住宅密集地域における集配効率を高め、年々増加する荷物量に伴う車両台数の増加を抑制し、大気汚染物質や地球温暖化ガスの排出量削減を図り、さらに、違法駐車や交通渋滞の解消など、交通公害をも削減します。

「ヤマト運輸地球温暖化防止目標」では、目標達成手段として「2012年度までにサテライトセンターを500店から1,000店に倍増」することを掲げています。2005年3月末には全国に600の「サテライトセンター」が設置されており、今後もさらなる拡大に努めていきます。

「サテライトセンター」の出店数推移



■低公害車導入の推進

当社は、時代ごとに最も環境負荷が小さい車両を、業界に先駆けて導入してきました。「ヤマト運輸地球温暖化防止目標」では、「2012年度までに20,000台の低公害車導入」を掲げており、2004年度には685台を導入、累計4,135台となり、一企業の保有台数としては最大となっています。2004年度末、当社の全車両数 39,952台のうち10.35%が低公害車となりました。

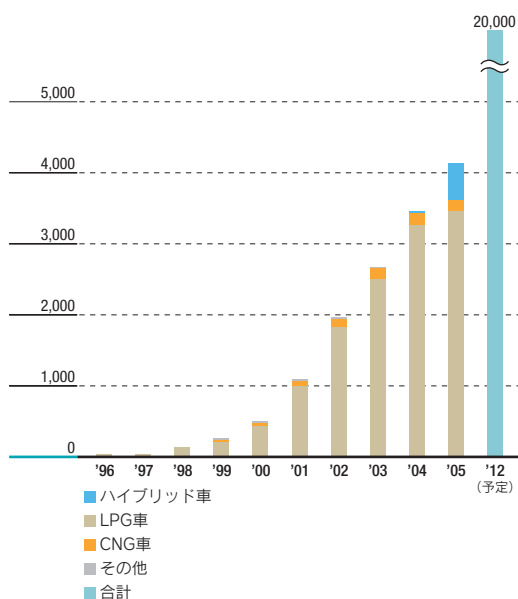
これまで当社は、主流としていたディーゼル車を、環境負荷の少ないLPG車に置き換えてきましたが、近年では、画期的に環境負荷が小さく、給油インフラも整っているハイブリッド車の利用が可能な環境となったことから、同車を中心とした車両構成への切り替えを進めています。

■ハイブリッド車導入の加速

電気モーターとディーゼルエンジンを組み合わせたハイブリッド車は、既存のガソリンスタンドでの給油が可能で燃費に優れ、CO₂排出量を大きく削減することができます。当社の集配車の中心である2トンクラスの貨物車にはハイブリッド車がなかったため、当社は自動車メーカーと共同開発によって、2002

年12月にモニター車を導入し、2003年1月から運行を開始しました。その後さまざまな検証を重ね、同年8月より本格的な導入を進めています。このハイブリッド車は、CO₂排出においては、ディーゼル車に比較して30%以上を削減、また、燃費においても30%以上向上させるものとなっています。今後も、ハイブリッド車を中心とした低公害車の導入を積極的に推進し、2012年までに20,000台とする計画です。

低公害車導入の推移



社会貢献

ヤマトグループは、日本全国に営業所、取扱店を配し、全国各地のお客様に支えられて事業を展開しています。当社グループでは、地域に密着した親しみのある企業を目指して、全国のお客様や子どもたちとの交流を深める活動を行い、企業理念にある通り、事業分野以外にも様々な活動を通して、それぞれの地域に住む人々とともに喜びを分かち合いながら、豊かな社会の実現に貢献したいと考えています。以下に、当社の地域に密着した活動の一端をご紹介します。

■「こども交通安全教室」開催

当社グループは、事業活動において、「安全第一」を常に重視しています。中でも子どもの交通事故防止は重要なテーマの一つであり、当社では地域の皆様に交通事故の防止を呼びかけるとともに、社員に対する安全意識高揚の場として「こども交通安全教室」を全国各地域で開催しています。1998年より開始した同教室では、実際にトラックを全国各地の保育園、幼稚園などに持ち込み、当社社員が着ぐるみを着て熱演し、交通ルールを教えています。これまでに9,100カ所以上で教室を開催し、延べ100万人を超える子どもたちが参加しました。2003年度以降は、保育園、幼稚園から小学校の児童や地域の安全セミナーまで対象を拡大し、実施しています。

教室では、子どもたちを車に試乗させ、車には危険な死角があることを指導したり、実際に車を動かしたりしながら、「見て・触れて・確かめられる」安全指導に努めており、子どもたちだけでなく先生や保護者の方々にも大きな関心と高い評価をいただいています。

「こども交通安全教室」実施状況推移(累計)

